

第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

1 広域道路ネットワークの構築

現状と課題

- 県内の高速道路ネットワークは、縦軸を形成する東九州自動車道が全線開通したものの、これを補完し、横軸を構成する中九州横断道路や中津日田道路は整備途上です。また、東九州自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路についてはそのほとんどが暫定2車線の状況です。
- 高速道路の暫定2車線区間は、対面通行による重大事故の発生や、事故発生時などの緊急車両の走行に支障があります。また、想定される南海トラフ巨大地震など災害時の対応にも課題があります。
- 大分空港道路では、定時性の確保や走行性の向上などアクセス改善が求められています。
- 県内の高速道路で霧などの悪天候により度々通行止めが発生し、県民生活や産業・観光面などで支障をきたしています。

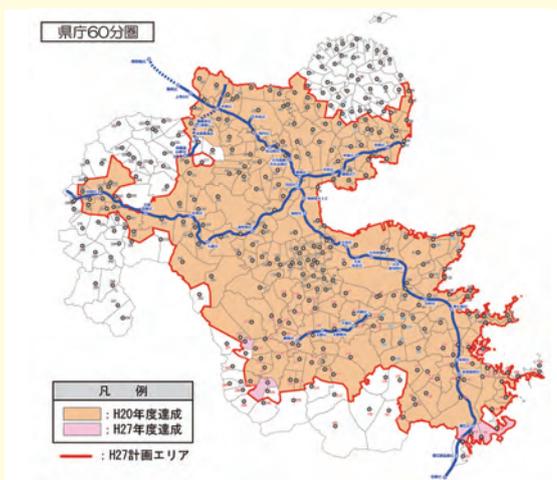


H27.3 現在

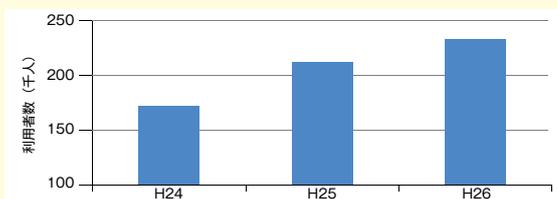
- 大分自動車道：全線4車線で供用中
- 東九州自動車道：ほぼ暫定2車線で供用中
- 中九州横断道路：朝地～竹田間が事業中、竹田～阿蘇間が未着手
- 中津日田道路：三光本耶馬溪道路・耶馬溪道路・日田山国道路が事業中、耶馬溪山国間及び三和～大分道間が未着手
- 大分空港道路：ほぼ暫定2車線で供用中
- 宇佐国見道路：現道活用も視野に入れ調査中

これまでの成果

- 東九州自動車道は県内の全線が開通し、中九州横断道路は犬飼～朝地間が、中津日田道路は本耶馬溪IC～耶馬溪山移IC間及び中津港から東九州自動車道までが供用し、この10年で県内の高速交通ネットワーク整備が進みました。
- これにより、大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域の割合が、57% (H16) から69% (H27) に拡大しました。
- 大分市～宮崎市間の所要時間は、50分短縮し、中津市～佐伯市間は、20分短縮しました。(※H16年度比)
- 産業や観光面での効果も現れ始めています。



大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域



今後の取組

大分自動車道や東九州自動車道などの高速道路を補完する地域高規格道路*2)の整備を推進します。また、東九州自動車道などの暫定2車線区間の4車線化に取り組みます。

※「九州の東の玄関口」の強化については、第5章「土木未来プロジェクト」を参照

●東九州自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路

- 東九州自動車道や宇佐別府道路については、暫定2車線区間の4車線化に向け取組を推進します。
- 大分空港道路については、4車線区間の延伸を進めます。
- 霧対策について国などの関係機関にITS技術の活用等を働きかけるとともに、通行止め時の迂回路の対策を検討します。

●中九州横断道路

- 平成30年度開通目標の朝地～竹田間は、早期整備を促進します。
- 竹田～阿蘇間については、早期の事業着手と整備の促進を図ります。



暫定2車線の東九州自動車道（宮河内～臼杵間）



整備が進む中九州横断道路（朝地～竹田間）

●中津日田道路

- 事業中箇所（三光本耶馬溪道路、耶馬溪道路、日田山国道路）については、計画期間内の開通を目指し整備を進めます。
- 事業未着手の耶馬溪～山国間及び三和～大分自動車道間については、調査を推進し、事業中箇所の進捗状況などを勘案しつつ、事業着手を目指します。

●スマートIC*29)

- 事業中の由布岳スマートIC（仮称）及び別府湾スマートIC（上り線）を供用します。



中津日田道路（中津港～中津IC付近）

目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域の割合	73%	76%	78%
地域高規格道路整備延長	67km	77km	100km

第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

2 地域道路ネットワークの充実

現状と課題

- これまで、市町相互や合併新市中心と旧町村中心を結び幹線道路などについては、一定程度整備が進んでいます。
- 一方、まちなか等の幹線道路では、渋滞対策や交通安全上の課題が残され、効率的な経済活動が損なわれています。また、中山間地域や半島部の生活道路では、未改良区間が多く残されています。
- また、中山間地域や海岸部等の道路では、災害に対して脆弱な箇所が多数存在しています。



歩行者、自転車、自動車が混在する国道
(国道442号：大分市宗方)



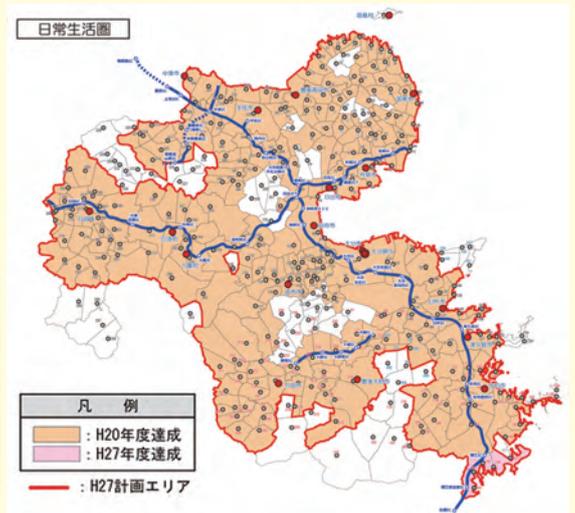
未改良区間が残る地方部の県道
(大泊浜徳浦線：臼杵市)

これまでの成果

- 地域間の連携・交流や緊急医療などを支える道路整備を推進した結果、各市町村中心部まで概ね30分で到達できる地域の割合が、74% (H16) から77% (H27) に拡大しました。
- 地元と合意形成が図られた箇所では、1.5車線の道路整備^{*30}事業や身近な道改善事業^{*31}などを活用することで、現地の課題に迅速に対応し改善を図りました。
- 道路を整備したことで、沿線に官公署や店舗が続々と進出し地域が活性化したり、リダンダンシー^{*3}が確保され災害時の迂回路として活躍するなど、多くの整備効果が発現しました。



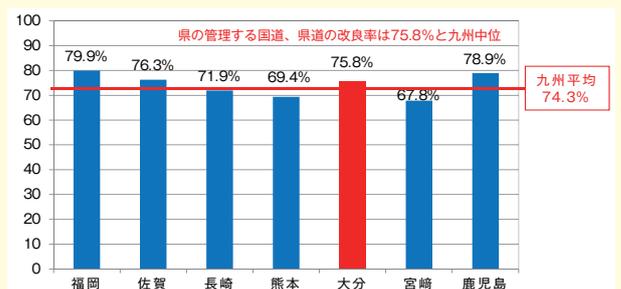
沿線に60店舗以上が進出した
国道217号佐伯弥生バイパス



各市町村中心部まで概ね30分で到達できる地域



大分県の改良済延長・改良率



九州各県との比較 (H25.4.1)

今後の取組

限られた予算のもと、路線の役割を区分し効率的・効果的な道路整備を進めます。

集落相互を結び、機能を補完し合うネットワーク・コミュニティ*1)の形成を支援する道路整備に取り組みます。

防災総点検による要対策箇所のうち啓開ルート*5)や孤立の可能性のある道路の防災対策に取り組みます。

●地域ネットワークの整備

- 幹線道路は、渋滞や交通安全上等の課題の多い箇所、インターチェンジへのアクセス道路等の整備を進め、物流効率化や産業の発展、生活利便性の向上に寄与します。また、合併新市中心と旧市町村中心を結ぶ道路等で未改良で残された区間や港湾とインターチェンジを結ぶ道路等の整備を進めます。
- 異常気象時等においても地域間のネットワークを確保するため啓開ルート上ののり面崩壊対策を推進します。



幅員狭小で旧中津江村、上津江村と日田市を結ぶ道路整備
(国道212号：日田市)



落石のおそれがあるのり面対策
(別府一の宮線：別府市)

●中山間地域等の生活道路

- 地域の拠点と集落、集落相互を結ぶ生活に不可欠な道路において、地域のニーズ、実情や交通量に応じ、従前の2車線改良に加え、1.5車線の道路整備*30)や、身近な道改善事業*31)等による局所改善などにより、効率的にサービス水準の向上を図ります。
- 災害時の通行止により、集落の孤立が発生する可能性のある道路について、のり面崩壊対策を推進します。



線形改良等による局所改善



路肩拡幅による通行空間の確保

目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
小規模集落から幹線道路へのアクセスを改善した集落数	—	90集落	144集落

第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

3 海上輸送拠点の強化

現状と課題

- 港湾需要が高まる近年、特に物流拠点においては、岸壁や埠頭などの港湾施設が不足してきた結果、港湾の利用が混雑し、物流活動に支障をきたしています。
- 港湾の背後圏域が道路整備により拡大するなど物流が広域化しているが、港湾と幹線道路を結ぶ臨港道路の整備が不十分なため、港湾のもつポテンシャルを十分に発揮できていない状況です。
- さらに、港湾関連交通が市街地や住宅地を通過し、円滑な輸送ができない上に、周辺住民の生活環境に悪影響を及ぼしています。
- フェリーや貨物船などの船舶の大型化が進んでいます。また、漁船やプレジャーボート等が混在する港湾では、港口でのすれ違いなど、航行の安全確保が課題となっています。



高まる港湾需要に対応しきれない港湾（大分港）



臨港道路が未整備のため、渋滞する一般道
(中津港：田尻交差点付近)

これまでの成果

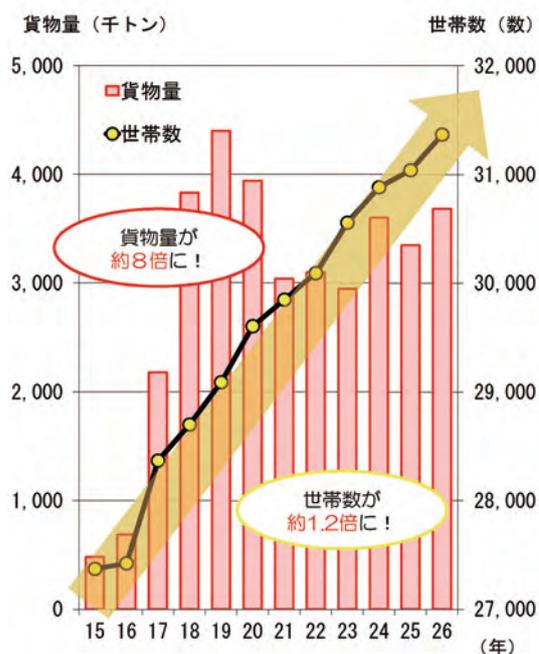
- 岸壁整備により中津港の貨物量が約8倍に増加しています。



中津港から輸送される車両

- 平成11年 6月 重要港湾に指定
- 平成11年12月 岸壁（-11m）工事着手
- 平成13年 4月 岸壁（-8m）工事着手
- 平成16年 9月 中津東ふ頭供用開始
- 平成16年12月 ダイハツ工場が生産開始

ダイハツ工場が生産を開始し、中津港の貨物量が飛躍的に増加。自動車関連企業の集積に伴い、中津地域において世帯数が増加



岸壁の整備により企業活動が活発化し、貨物と世帯数が急増

今後の取組

● 港湾機能の強化

- 貨物需要の増大や新規就航等の港湾ニーズに対応するため、埠頭利用の見直し・調整や老朽化した施設の廃止など埠頭再編の検討を行い、港湾計画の変更を行うなど事業化に向けた取組を進めます。

※「九州の東の玄関口」の強化については、第5章「土木未来プロジェクト」を参照



大分港大在地区

利用可能用地が乏しい大分港大在地区



佐伯港女島地区

ニーズに応じた港湾の整備事例

● 幹線道路との交通アクセスの向上

- 輸送コストと環境負荷の低減を図るため、臨港道路の整備を推進します。



大分港

幹線道路と港湾のアクセスを向上させるための臨港道路の整備



中津港

● フェリーターミナルの整備

- フェリーの大型化や船舶の安全な航行を確保するため、新フェリーターミナル整備や既存施設の改良を推進します。



白杵港

大型化するフェリーに対応するためのフェリーターミナルの整備



大分港

● ポートセールスの強化

- 広域交通ネットワークの整備により利便性が向上した港湾について、港湾施設の利活用の促進とモーダルシフト^{*32)}の推進のためのポートセールスをより一層強化します。

目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
新規バースの整備延長 *専用岸壁除く	—	130m	260m